

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	三重県	市町村名	鈴鹿市	大学名	
派遣日	令和 7 年 1 月 7 日 (火曜日) 9 : 30 ~ 11 : 30				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	鈴鹿市役所 1 2 F 大会議室				
アドバイザー氏名	山梨県甲府市立大國小学校 教諭 今澤 悌 氏				
相談者	市内小中学校 日本語教育担当者、在籍学級担任、日本語指導講師等				
相談内容	鈴鹿市では、「地域の子どもは地域の学校に」という考えのもと、外国人児童生徒等についても居住している地域の学校への通学を基本としている。外国人児童生徒等が多く在籍している学校には、国際教室を設置し日本語指導をしたり、ポルトガル語（またはスペイン語）の外国人教育指導助手を配置し、母語支援をしたりしている。しかし、近年では外国人児童生徒等の在籍する学校も散在化傾向にあり、外国人児童生徒等の在籍が少ない学校では、初めて外国人児童生徒等に携わる教員も多く、日本語で学ぶことが難しい児童生徒の学習指導や支援に不安に感じている教員もいる。 そこで本年度、本市では「在籍学級での日本語支援」に力を入れて取組を進めている。数年の全国学力・学習状況調査の結果分析からも、在籍学級で授業を受けている外国人児童生徒等の正答率が伸び悩んでいる。また、国際教室及び日本語教育担当者の中で、国際教室での学びをどのように在籍学級での学びにつなげていくかということに課題を持っている教員も多い。多くの外国人児童生徒等が一日の多くの時間を在籍学級で過ごすことから、在籍学級の担任または教科の担当者が、在籍学級の授業の中でどのようなことを意識したり、どのような支援を行っていけば学びにつながる授業ができたりするかについて学びたい。				
派遣者からの指導助言内容	「子どもの生活・学び・未来を支える指導 ～ 在籍学級の授業を『生きた学びの場』に～」と題して、授業の組み立て方や、国際教室で活かせる具体例などの講義をしていただいた。 ○日本語指導の5つのプログラム 「来日したばかりだから」「日本語の力がまだ身についてないから」と教科の学習をしないのではなく、学習や活動に必要な語彙や必要な表現を教科と関連付けて学習をさせる大切さをお話いただいた。「日本語と教科の統合学習」について大切なポイントとともに理科や国語、算数などの具体的な学習を例に授業づくりのステップを紹介いただいた。また、授業計画を立てる際に、外国人児童生徒等が在籍学級での授業に安心して参加できるよう、在籍学級担任と国際教室担当者がどのように連携すればよいのかも御指導いただいた。 ○JSL5支援について 主に「理解支援」「表現支援」について今澤先生の多くの実践例を教えてください				

(様式 3)

	た。教科書リライトについても、一文を短くわかりやすい言葉にするという方法だけではなく、絵で理解を促したり、文ごとに区切って示したり、「紙芝居型本文」といった方法で段落ごとの意味を理解させたりなど、外国人児童生徒等の日本語の力の様子に応じた支援方法を紹介いただいた。さらに、先生の理科の模擬授業から、わかりやすい指示や発問の仕方、板書をする際のポイントを教えていただいた。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	実践例を具体的に教えていただいたことで、今後の授業の中で、視覚支援や授業に参加できる工夫をしていこうと参加者の意欲向上につながる研修会となった。研修後のアンケートでは、「具体的な実践をたくさん学ぶことができた。」「学習のレベルを下げずに、理解しにくい日本語について絵などを使っていかに理解しやすくするかなど、参考になった。」といったような感想が多数あった。 本年度から「在籍学級での日本語支援」を日本語教育の重点取組とし、取組を進めているため、今回学ばせていただいたことをもとに、今回教えていただいた視点を取り入れた授業を学校とともに実践し、多くの教員に紹介していきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。